

北関東・花瓶山～向山

T野

2023年4月9日

メンバー： T野・T中m・A岡



4/8の夜、我々は栃木県大田原市の「道の駅・那須与一の郷」で寒さに震えていた。「なんだなんだあーこの寒さは、聞いてねえぞ！！」って、ホントは聞いてはいたのだが、何と2℃！！これでは真冬である。このところ暖かい日が続き、20℃以上の暖気に慣れてしまった身体にとって想定外の寒さである。早速、mさんが「ズルーイ」とか言いながら僕のダウンパンツの略奪を狙っている。急いで道の駅の片隅の目立たないところに小さなテントを張って中に入ると、ようやく寒さから逃れて落ち着くことができた。

■写真上 林道に咲くヤマブキとスミシ。

■写真中 同じく林道の沢沿いにはミツマタも・・・。

■写真下 稜線を歩くとようやくイワウチワの群落が見れた。

さあ一時間はまだ早い、宴会だ宴会・・・！！今日は、前日までの新潟出張の際、旅行支援でもらった¥2000のクーポン券で購入したちょっと高い酒、その名も「千年の翠・純米吟醸」！！（新潟の朝日酒造の銘酒）を持参した。この酒は純米にもかかわらず、清廉でスッキリしたのど越し、それでいてコメの香りはしっかり漂うところが、いかにも純米であることを主張しているような・・・なんてね？実はよくわかりません。僕にとって日本酒は名前の格好良さが命、それで値

段がそこそこ高ければ充分に有難がたい存在なのだ。まあ、硬いことは言わずとも3人で飲む酒は美味しく、あっという間に4合瓶を飲み干してしまった。まあ、明日が本番なのでこのくらいがちょうど良いということで、おやすみなさい。

4/9

今日訪れる山は「花瓶山」いかにも花が多そうな名である。実際、花自慢の山で、記録によるとこの時期、イワウチワとカタクリが見ごたえのある群落を彩り、それ以外にもあんな花や



こんな花も咲いているということで、この時期限定の人気の山のようなのである。実は去年、花名山の噂を聞いて、同じ山域の「横根山」という山を訪れた。それこそ足の踏み場もないようなイワウチワの大群落に「へえー茨城にこんな山があるんだ・・・！！」といたく感動し、この辺りの山に興味を持った。今回、急な計画だったにもかかわらず、嬉しいことに同行した二人のメンバーがエントリーしてくれて実行することができた。そう、僕は元来、単独遊びが下



手なので、単独でこういう山行を実行することは、まずありえないのである。ということで、mさん、A Jさん、今回の山行、同行してくれてホントに有難う！！

- 写真上 次郎ブナ
- 写真中 伐採で荒れた山
- 写真下 花瓶山山頂。



ところで、茨城の山といえば晩秋の紅葉が思いのほか素晴らしく、他の山域の紅葉が終わったところに最盛期を迎えるのがまた良いところで、それが気に入ってここ数年通いつけていた。だから、去年まではどちらかという紅葉目当ての山域として頭にインプットされていた。ところが、早春、他の山域の花がまだ咲いていない時期に、春の花のピークを迎えるのも茨城の山だということがわかり、最近では、早春と晩秋の両方の時期に訪れるのがマイブームとなったのである。・・・と、茨城の山を持ち上げるだけ持ち上げといっているのもなんだが、実は今週、山スキーを計画していた。それが悪天で中止になり、その

代替案がこの計画というのが落ちなのである。さて、そんな付け焼刃で訪れる花瓶山はいかに・・・では報告です。



「道の駅 那須与一の郷」から国道 461 号を走り、花瓶山登山口を目指す。グーグルマップで「花瓶山」で検索したところ、少し手前から北上する道に入ってしまった、途中で間違いに気づいて戻り、20分ほど時間をロスしたが、何とか国道から登山口に入る道を見つけ（小さな道標あり）無事登山口に到着、大きな駐車場があり、たくさんの車にマイクロバスまで駐車していて人気のほどが伺える。ここまでは舗装された道である。この先も未舗装にはなるが、自家用車なら問題なく入って行ける道が続いている。2kmほど進めばウツボ沢登山口という最後の駐車スペースがある。ここに駐車できなければ、先程の駐車場まで戻らねばならない。幸いにも1台分のスペースがあったので、そこに車を滑らせ2kmの車道歩きを回避することができた。

■写真上 花瓶山山頂から見る山桜。

■写真中 唯一、花卉が開いたカタクリ！！

■写真下 もし花卉が開いていれば見ごたえがあるだろう。

準備して 7:40 出発。最初は如来沢沿いの林道に行く。早速、ニリンソウやミツマタ・ヤマブキなどの花がちらほら咲いているが、この寒さで縮こまっていて元気がない。1時間ほど歩くと林道を離れ登山道に入る。ここはアジサイロードとなっているが、もちろんこの時期にアジサイが咲いているはずもなく、去年咲いていた花の残骸がドライフラワーと化してところどころに張り付いているだけであ



る。6月頃に訪れれば見事なアジサイを愛でることができるのであろうか？

さて、ひと登りして稜線に出ると、寒風が吹き荒れとにかく寒い（結局、今日はダウンジャケットと手袋が脱げなかった。）。わずかに白いものが地面に見られ、霜と思ってよく見たら紛れもなく雪であった。昨晚の冷え込みは600mそここの関東の低山にも雪を降らせていたのだ。道理で寒いわけである。さて、ここから右にわずか50mほど行けば花瓶山の山頂に至るが、我々はイワウチワの群落があるという次郎ブナを目指し左に進路をとる。北風が吹き荒れ、那須方面の山々は雪雲で覆い隠されて見る事ができない。間もなく先の方で人が立ち止まっているので行ってみると、ようやくイワウチワの群落を見つける。ただ、規模は小さく、去年の横根山の足の踏み場もないほどの大群落とは比べるほどでもない。さらに、楽しみにしていた「次郎ブナ」も、そこそこのブナを見慣れている我々にとっては普通のブナであり、さらに、この辺り一帯、ひどい伐採で山が荒れていて悲しくなるような景色である。正直、この辺りまでは「花瓶山、言うほどの山ではないな。」という印象であった。

■写真上 山からの贈り物！！

■写真中 イワウチワロードの始まり！！

■写真下 ミツバツツジも！！

来た道を先程の分岐まで戻って山頂を目指せば、短い急



登であっさりと山頂に到着。南側が開けていて、対面の山桜が美しい。ただ、開けている理由が伐採というのがいささか気になるところだが・・・。とはいっても、切り株がちょうど良い椅子となり、腰を痛めているmさんには格好の休憩スポットとなる。南向きということで、風があたらないのも好印象だ。ということで、ここで一休みして、おにぎりを頬張る。まだ10時前なので、杉林と伐採地ばかりで、たいして面白い山でもないし、「サクッと下山して那珂湊のお魚市場に行って海の幸を堪能しよう！！」とこの時、すでに我々は花瓶山を見限り、次の楽しみを求めだしていた。

「さあ、下山、下山！！」と歩き始めてしばらく行くとカタクリの群生地が現れた。この寒さでカタクリの花弁はほとんど閉じてしまっているが、北斜面一面に薄紫色の花が散りばめられていて、これがもし、花弁が開いていたら、と思うとその光景はきっとなかなかのものであると思う。ただ、今回、花弁を開いてくれなかったカタクリに一言物申したい、「この程度の寒さで花弁を閉じるくらいなら、北斜面などに群生せずに、なぜ最初から南斜面に群生しないのだ。この愚か者！！」と。いや、もちろんこれは冗談である。というより、カタクリはなぜ日当たりの悪い北斜面を求めるのかが実に不思議だということをお願いだけなのだ。

■写真上・中 イワウチワロードにて。

■写真下 ずっと続いている！！

さて、カタクリの群生地を通り過ぎると、杉林中心だった森



が、ところどころ広葉樹の森となり、なかなか雰囲気は良くなっていく。緩やかにアップダウンのある道は意外に長く「日当たりの良いところで一本取ろう！！」と平坦地でひと休み、気づくと少し道から外れた場所に思いもしないものが・・・！！なんと一面〇〇アブラの木が密集しているではないか！！さらに、すでに芽を付けていて、これまたどこからともなく現れたジモティーっぽいおじさんとおばさんが一心不乱に〇〇アブラを採取しているではないか！！この時点で我々にとって花瓶山は「花を愛でる山から獲物を狩る山へ」変化を遂げた。とはいっても大方、このジモティーパーに採取されてしまった後なので「おこぼれ頂戴」的な採取になってしまったが・・・。

しかし、それはそれ、今回は僕とA Jちゃんの計らいで腰が悪いのに参加してくれたmさんに採取した〇〇アブラ全てを差し出し、mさんはそれを全部天ぷらにしておいしくいただいたようである。ただこの話には落ちがあって、先日

日の総会で「僕が差し出した〇〇アブラの中に偽物が入っていた」と、mさん、ニヤニヤしながらわざわざティッシュに包んで袴のない証拠品を持参してきた。いやいや気づいてくれて良かった。「ホントすみません」まだまだ修行が足りませんネ。危うく腰だけでなく、腹まで悪くさせるところであった。

■写真上 見事なイワウチワロードが続く！！

■写真下 黒羽温泉・五峰の湯のボリュームミーで美味しい食事。

ここでかなり時間をつぶし、戦利品も無事、手に入れたので、海に幸は止めてのんびり帰ろうということになり、向山を越えると、意外にも見事なイワウチワロードが広がった。なんて言うことはない、イワウチワの大群落は、逆コースを辿れば歩き始めてすぐにお目にかかれたのである。さらに、早咲きのミツバツツジまで山を彩り、この辺りはまさしく春本番という感じの風景が広がっていた。天国のようなイワウチワロードを写真を撮りながら下っていくと間もなく、見覚えのあるマイカーが視界に入って、最終的には満足した気持ちでハイキングを終えることができた。

結果的には花瓶山は花の山を名乗るに十分な魅力のある山であった。しかし、次郎ブナへの道は割愛しても何の問題もなく、周遊で充分魅力が味わえるように僕には思えた。許されるならこっそり登山道を離れて〇〇アブラ狩りなどすれば、花見だけでなく、お土産もできて最高に楽しい1日となるであろう。

さて、海の幸を止めたので時間に余裕ができ、温泉探しに精を出すと、「黒羽温泉・五峰の湯」がヒットした。ここは関東にしては¥500とリーズナブル。ツルツルのアルカリ泉で露天もサウナもあってお薦め！！食事もここで食べたがボリューミーで美味しかった！！

帰路は利根川の橋で事故があり、高速は大渋滞を引き起こしていたので、佐野SAで高速を降り、mさんナビで抜け道探し。さすがに「旅人mさん」は伊達じゃない、地図が読める女である。ほとんど渋滞に巻き込まれることなく、「90分以上」という表示のところを下道40分で渋滞を回避した。今回、去年入会したAJチャンとも距離が縮まり、mさんのリハビリにも貢献できたので、スキーには行けなかったがそれなりに意義もあり楽しく過ごすことができて良かった。また宜しくお願いします！！

■コースタイム

ウツボ沢 (7:40) ~ (8:40) 登山道分岐 (8:42) ~ (9:00) 稜線 ~ (9:20) 次郎ブナ
(9:30) ~ (9:45) 花瓶山 (9:55) ~ (10:55) 〇〇アブラ群生地 (11:20) ~ (11:47) 向山
~ (12:20) ウツボ沢